

昔、荒川放水路と呼ばれた現荒川(昭和40年～名称変更)のその堤に五色桜が植えられるようになったのは今から35年程前です。市民から荒川土手に五色桜を植樹してほしいとの要望が足立区議会を通してあり、折から当時の建設省の洪水を防ぐための高規格堤防整備事業とも相俟って、堤上へ盛り土による桜の苗木の植樹が可能となりました。区による「桜つつみ事業」の始まりです。平成2(1990)年から3年かけて堀之内一丁目の堤300mに、第2回目の里帰りザクラ18種120本が植樹されました。

この里帰り桜とは江戸時代に由来する「五色桜」のことです。明治19(1886)年3月に、当時の荒川の洪水のため傷んだ堤の改修のため、「数十種の桜三千余株」の苗木が江北一帯の村人たちの尽力で3200余間(約5.8km)に植樹されます。明治の中後期には育成された見事な桜並木をつくり出し、いつしか五色桜と呼ばれるようになりました。

しかし、明治43年の荒川の大洪水で甚大な被害が及びます。そのため荒川の改修が議論され治水対策として荒川放水路の建設が始まり、東京都の岩淵で二つに流路が分かれます。荒川堤にも工事が及び、五色桜並木にも大きな影響があり伐採や移植などで衰退し、その後の戦争や公害で原形は失われます。

しかし、昭和27(1947)年に当時の足立区長の働きかけで、その昔東京市からワシントン D.C.に寄贈された日米友好桜が実は五色桜の穂木からのもので、ポトマック河畔で無事育成されており、接ぎ穂の里帰りを申し込み実現します。11種55本が空輸され、失われた荒川堤の五色桜が里帰りを果たします。

その後、「桜つつみ事業」の延長上に足立区では、「平成五色桜」のプロジェクトが推進され、平成21年から「ふるさと桜(平成五色桜)オーナー制度」が始まり、鹿浜橋から西新井橋の4.4kmにかつての五色桜の品種32種、458本の桜の苗木が平成28年3月にかけて植樹されます。同年には愛称を一般公募し「あだち五色桜の散歩道」が名付けられました。こうして、今の荒川の堤の景観が生まれました。

明治45年に日米友好桜として寄贈された五色桜の穂木は、害虫に強い11種類が選ばれました。染井吉野、白雪、有明、御車返、福祿寿、一葉、関山、普賢象、御衣黄、上香、滝香です。現在の荒川堤でこうした桜を探してみても歴史を振り返るのも趣がありそうです。また色を目印に散策しても楽しいでしょう。白系統には大島桜、白妙、ソメイヨシノなどがあり、黄色では鬱金、御衣黄そして淡紅色は一葉、松月などがあり、濃紅色では関山、寒緋桜などがあります。一重や八重のものがありますので探索してみてください。

また、NPO法人五色桜の会が実行委員会のメンバーとして参画している「あだち五色桜マラソン」は、平成25年の当初は駅伝として始まり、同28年から現在の形式で実施、本年度で第13回を迎えます。

大会会場は江北橋緑地で、日暮里・舎人ライナーの「小台」「扇大橋」の各駅から徒歩15分程で荒川下流左岸の同会場に着きます。丁度、「平成五色桜」が平成21年に植樹された堤上のAブロックがこの辺りで、並木は下流は西新井橋へ、かつ江北橋、鹿浜橋の上流にかけて、所々隙間もありますが続きます。

さて、マラソンコースの特徴としては、統括より「荒川河川敷のアップダウンの少ない広々としたコース。五色桜大橋をくぐりスカイツリーを眺めながら、〔ハーフ〕1往復約7.0325kmのコースを3周、〔10km・5km〕1往復5kmのコースを2周ならびに1周、他の競技も距離に合わせた走りやすい1往復のコースとなります」と紹介されました。長距離コースでは、スタートの河川敷からしばらくして堤の昇り下りがあり、「桜つつみ事業」の300mの成長した五色桜の並木沿いを走れます。

本年からは「あだち五色桜マラソン」と「あだち荒川マラソン」の二本立てで大会を実施いたします。実は五色桜マラソンでは例年一輪車の大会も合わせて実施して来ましたが、競技時間や会場での接触等の事態も懸念され、小学生を対象にした競技を別途に実施出来ないか強い要望があり、関係各位とも相談の上、名称を違えて2大会に分けての開催の運びとなりました。五色桜並木の桜が散りその後の瑞々しい緑色の葉桜が魅力を魅せる季節に、子どもたちへの「かけっこ競技」を中心にマラソン大会を開催します。遠くに東京スカイツリーも望めるビュースポットとなるコースを、若い桜の生長を願って走りましょう。